

英語科 学習指導案

枚方市立招提中学校

指導者 水野 豪 印

NET スコット 山根

1. 日 時 平成25年11月15日(金) 5校時/13:55~14:45
2. 学年・組 第2学年1組 (男子11名、女子9名)
3. 単元名 Unit5 A New Language Service New Horizon (東京書籍)

4. 単元目標
 - ・接続詞 (If, when, I think that, because) を用いた文の形・意味・用法を理解し表現できる。
 - ・新聞や広報誌の記事を読んで、内容を理解することができる。
 - ・職場体験の経験をまとめた英語で発表し、その内容についてクラスメイトと英語でやり取りができる。

5. 教材観

日本で暮らす外国人の数は年々増加し、彼らと共存していくことが求められている。本単元は、緑市国際交流センターの広報誌の記事をはじめ、新しいサービスについての新聞記事やそれに対する意見を読むことで、住民として日本に暮らす外国の人たちが直面する様々な問題について考えることができる内容である。外国人と共存するために自分たちには何が出来るかを考えさせることができる題材である。

ここでは特に、生徒たちが一生懸命取り組んだ職場体験を題材として扱うことで、生徒たちが英語での言語活動に取り組みやすいようにした。

6. 生徒観

2年生になり、学習内容が難しくなると同時に、英語に対する苦手意識を持つ生徒が増えている。最近の授業では英語が得意な一部の生徒と、教師とのやり取りが多くなって来ている。全体でのあいさつやリピートではほとんど声が出なくなっている。ペアワークやグループワークを取り入れ、積極的に授業に参加するように生徒に働きかけている。

7. 指導観

文法の正確さだけにとらわれるのではなく、表現活動において生徒たちが自分の伝えたいことや、たずねたいことを英語で表現できるように授業を展開していく。

8. 単元の評価規準 コ は本時の評価

コ コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表 外国語表現の能力	理 外国語理解の能力	言 言語や文化についての 知識・理解
① 間違いを恐れずに積極的に発表している。 ② ペア・グループワークに主体的に参加できる。	① 自分たちの経験を英語で表現する。 ② 友達の発表を聞いて、その内容を理解し、英語で質問することができる。	① 英語での質問に受け答えができる。	① 英語と日本語での表現方法の違いに気がつくことができる。

9. 指導と評価の計画

時数	○ねらい ・学習内容	評価規準				評価方法
		コ	表	理	言	
第1時	U5 part1 接続詞 if 節の形・意味・用法を理解し、表現できる。	①				ワークシート
第2時	U5 part2 接続詞 that 節の形・意味・用法を理解し、表現できる。			②		ワークシート
第3時	U5 part2 接続詞 when 節の形・意味・用法を理解し、表現できる。				①	ワークシート
第4時	U5 part2 接続詞 because 節の形・意味・用法を理解し、表現できる。 職場体験の経験を英語で表現する。			②		ワークシート
第5時	・職場体験の経験についての発表。		②			活動の観察

(本時)	○職場体験の経験について英語で発表し、友だちからの質問に答える。				
第6時	第5時と同じ		②		活動の観察

10. 使用教材

パソコン、プロジェクター、スクリーン、書画カメラ

11. 本時の学習

- (1) 目標 職場体験の経験について英語で発表し、友だちからの質問に答えることができる。
(2) 展開

授業の流れ	教師の活動内容	生徒の活動内容	指導上の留意点	評価の観点	評価方法
I あいさつ (2分)	・あいさつ	・あいさつ	・元気よくあいさつするよう促す。		
II ウォームアップ ペアワーク (5分)	・ペアで Q&A をするよう指示する。	・ペアで Q&A をする。	・机間指導でペアワークのできていないところにするように促す。		
III 導入① (5分) グループ	・職場体験の発表の仕方と、その内容についての質問の仕方を説明する。	・教師の説明を聞く。	・短く簡潔に説明する。		
IV 展開① (35分)	・最初に当たった生徒から順番に職場体験の経験について発表していくよう指示する。 ・一人ずつ発表が終わるたびに、NETからの質問をする。NETの質問の後に、生徒を一人当て質問をさせる。	・最初に当たった生徒から順番に職場体験の経験について発表していく。 ・発表生徒は前に出て、自分の発表をする。その後 NETからの質問と生徒一人からの質問に答える。 ・発表を聞いている生徒は気になった内容を書き取る。 ・質問者として当たった生徒は発表者に質問をする。質問を同じ班の人に手伝ってもらってもよい。	・発表に詰まった生徒の補助をする。 ・アイコンタクト等、発表時の大切な注意点にふれる。	表②	ビデオ
V まとめ (3分)	本時に出た表現をクラスで共有させる。	本時に出た表現をクラスで共有する。			